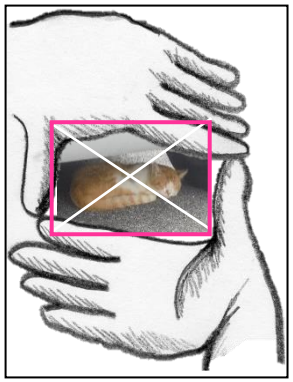
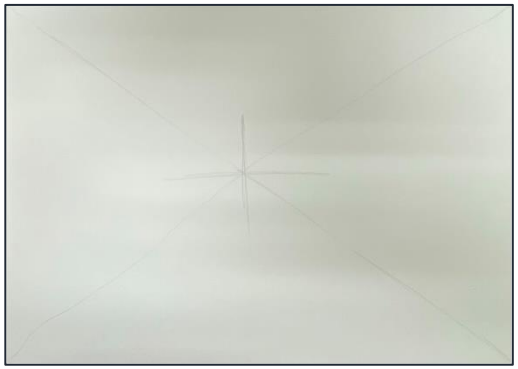
動物を水彩で描いてみよう！part.1

＊小、中学校で水彩画は１回は取り組む題材です。「難しい。」と感じてしまいがちですが、自分が「描く対象を、このように描きたい！」という強い思いをもって、一生懸命に取り組めば、きっと描けると思います。今回は動物の描き方を勉強してみましょう。

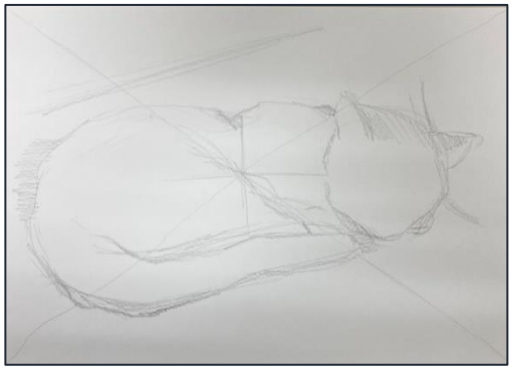
昼寝をしているネコです。



⓪構図（画面への対象物の入れ方）を決める。この時、自分の作品の完成図をイメージします。
（物、風景など描く時など、全てに応用が効きます。）



①描く前に画面の中心を決めます。
（対角線を引き、交わった所が中心）
（描く対象物が縦に長い場合は、画用紙は縦に、横の広がりを表現したい場合は画用紙を横向きにして描きます。）



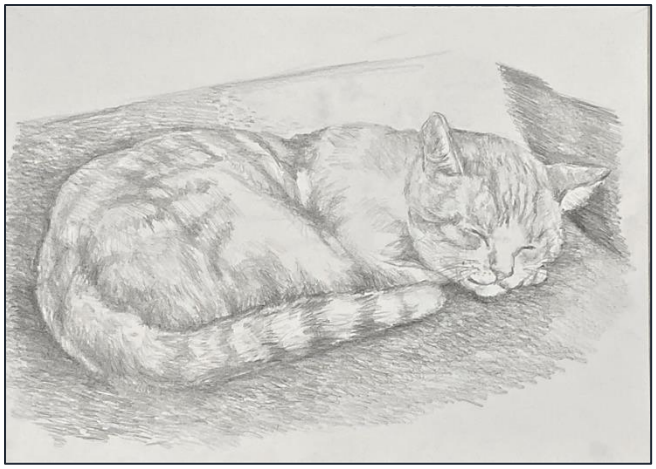
②描くものの、りんかく線(物を形作っているいちばん外側の線)を薄くおおまかに描きます。
＊大きく描きます。また、構図（画用紙への物の入れ方)を確認するために、絵から離れて観察します。この時、バランスが悪ければ直します。

③不必要な線を全部消し、よく実物（写真）を見て、自分の絵の形と確かめます。(＊中心線など形などを確認する上で、じゃまになるので消す。)

④よく見て、目立つ物（目印となる物）から描いていきます。(ネコの顔、耳、しっぽのしま模様の位置を確認しながら描く。)（薄く描いているのは、間違った時に消しゴム等で訂正しても画用紙を傷めないため)

⑤よく見て、ネコの毛の流れ、体の内側の筋肉の様子を描いています。この時、地面も一緒に描いています。(全体にバランスよく描いていきます。バランスよく描いていくと、完成に近づきます。)

動物を水彩で描いてみよう！part.2



⑥下描き完成です。

⑦水彩絵の具による着彩開始です。道具は、主に筆３種類、パレット（暖色系、寒色系と２つに分けていますが、パレットは通常１つ）です。

平　筆　　彩 色 筆　　面 相 筆

パレット

暖色系　　寒色系

⑧明るい暖色系の色から下描きが透けるように、うすく塗ります。　（全体に黄土色[地面のアスファルトを含め]を塗っています。）基本的に色は混色して塗ります。

⑨明るい暖色系の色から下描きが透けるように、うすく塗り続けます。（ネコの毛の流れ、体の内側の筋肉の様子を想像しながら塗り描いています。）

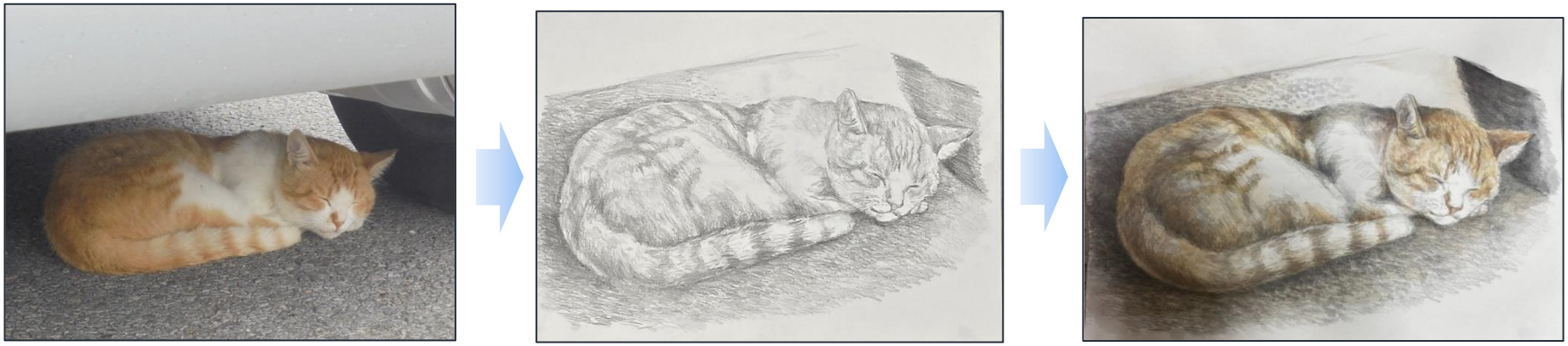
⑩微妙に変化する色味（ここは、このような色に見える）を感じながら全体に調整して塗り重ねていきます。（色は塗り重ねれば重ねるほど、黒色に近づき（濁り）画面は重くなり、重厚感が増します。）

⑪完成です。　　題名　「 納 涼 」

最後に・・・

水彩画を描く（制作する）時のポイントは・・・
①（仮に写真を参考にして）描く場合は、その場所にいるつもりで、「自分が、その題材の何を、どのように表現したいのか」
　を自ら確認しながら制作する。
②描く前に対象物をよく見て特徴を理解する。
③常に自分の作品の完成図をイメージする。

です。

目の前にある対象物に迫るように表現するためには、多少なりとも時間がかかります。「早く完成させよう。」という気持ちで焦って取り組めば、絵は雑になり、自分の予想した仕上がりになりにくく、そのような作品を大切にする気持ちも薄くなると思います。画面全体を常に冷静に見つめ、途中であきらめずに、他人と比較することなく、自分自身を見つめて粘り強く表現することです。そうすれば自分が満足する水彩画が完成するかもしれません。

最近は、万人が気に入った風景等の写真を気軽に撮ってすぐに保存ができる世の中ですが、自ら「水彩画などの絵を描く」となると、一生の内で、取り組む機会は専門に勉強しようとする人を除いて、少ないと思います。その機会を大切にし、ぜひ、自分だけの表現で、自分だけの水彩画を完成させてください。